

## 研究ノート

## 留学生の就職活動におけるソーシャル・サポートと自律性

藤本昌代<sup>1)</sup>・浦坂純子<sup>2)</sup>森山智彦<sup>3)</sup>・ハッカライネン・ニーナ<sup>4)</sup>

**要約**：近年、日本では国際化推進政策により、留学生が急増している大学が多いが、出口にあたる就職活動に関する制度や情報は、未だ十分ではない。このような状況を鑑み、本学では留学生の教育、支援に資することを目的として、2012年3月に学部・大学院を卒業・修了する留学生を対象に調査を実施した。

分析では、回答者を就職活動の有無と就職決定の有無に基づいて3グループに分類し、3つの分析視点（ソーシャル・サポート、各種活動経験、就職活動の内容）から比較した。その結果、就職が決定しているグループは、多様な人々と関わり、課外の集団や地域活動へ参加し、日本人学生と同様の就職活動を行っている傾向が見られた。一方で、就職が決定しなかったグループへの自律性向上の教育、支援策の必要性が明らかになった。

**キーワード**：留学生、就職活動、ソーシャル・サポート、自律性

## 目次

1. はじめに
2. 調査概要
3. 分析視点
  - 3-1. 仮説1：ソーシャル・サポート
  - 3-2. 仮説2：各種活動・アルバイト経験
  - 3-3. 仮説3：就職活動の内容
4. 仮説検証
5. 考察
6. おわりに
7. 付録
  - 7-1. 各活動の開始・終了時期（詳細）
  - 7-2. 各活動における接触（該当）企業数（詳細）
  - 7-3. 単純集計表および自由回答

1) 同志社大学社会学部教授

2) 同志社大学社会学部教授

3) 同志社大学社会学部助教

4) ヘルシンキ大学大学院・博士後期課程

（2012年3月まで同志社大学大学院社会学研究科・外国人研究生）

\*2012年8月20日受付，2012年8月20日掲載決定

## 1. はじめに

近年、政府の国際化推進政策により、日本の大学は多くの留学生を受け入れている。語学留学を目的に日本を訪れる学生、学部・研究科に入学し、卒業・修了を経て出身国に帰る学生、日本で就職先を得たいと考えている学生など、それぞれ目的は多様である。

学部・研究科に入学する留学生の多くは、日本語検定1級以上の日本語能力を持ち<sup>(1)</sup>、授業にも支障なく参加できることが前提であるため、日本人学生と同じように扱われることが多い。そのため、留学生の就職先に関する情報は、日本人学生と同様にキャリアセンターによって把握されているが、就職活動の過程や彼らを取り巻く社会的環境については明らかになっていない部分も多い。日本人学生でさえ、就職活動に不安を高めている中、留学生はどのように対応しているのだろうか。現在、留学生の就職支援は未だ初期段階にあり、この問題に関する情報は十分ではない。そのため、留学生に対して大学がどのような方向性で支援体制を構築し、具体的にどのようなサポートを行っていくべきかが検討できない。

そこで本学では、留学生の教育、支援のため、国際連携推進機構留学生課が主体となり、2012年3月に学部・研究科を卒業・修了する留学生を対象とし、彼らの進路、就職活動、社会的環境、支援体制の実態について、調査を行った。本稿は、その調査結果について、単純集計を中心に取りまとめたものである。

構成は次の通りである。第2節では、調査の概要を示す。第3節では、分析の視点として3つの仮説を提示する。第4節では仮説を検証し、第5節で分析結果について考察する。最後に第6節で、分析・考察を踏まえ、留学生の教育、支援に対する具体的な提案を述べる。

## 2. 調査概要

本調査（2011年度同志社大学留学生アンケート）は、国際連携推進機構傘下の留学生課より、社会学部教員であり日本語・日本文化研究センター所長である藤本（専門社会調査士）に委託され、同じく社会学部教員であり専門社会調査士である浦坂、森山と共に調査委員会を組織して実施した。実施にあたり、情報共有などを目的とする会合を複数回設定し、本稿の共著者であるハッカライネンおよびキャリアセンター、関係部署からの参加、協力を得ている。調査概要は、表1の通りである<sup>(2)</sup>。

表1 調査概要

調査対象	2012年3月に学部・大学院を卒業・修了した正規留学生97名（学部37名・大学院60名）
調査方法	自記式調査票調査 日本語では問いの意味が理解しにくい留学生のために、英語版も用意し、説明要員、調査票チェック要員を配置して実施
調査時期	2012年3月19日(月)～4月16日(月) 留学生のためのフェアウェルパーティ会場にて集団調査（2012年3月19日） パーティに不参加だった留学生にも可能な限り個別に調査協力を依頼
回答状況	67名 有効回答者49名（学部15名・大学院34名）

### 3. 分析視点

以下では分析対象49名を3グループに分け、3つの分析視点から仮説を立て、留学生の現状を検証する。グルーピングに関しては、就職活動で留学生が出遅れていないか、支援体制が不足していないかという点を把握することが、本調査の主要な目的であることから、就職活動の有無（問7）と就職決定の有無（問18）に基づいている。具体的には、この2つの質問を利用し、就職活動をして、就職が決定しているグループをA、就職活動はしたが、就職が決定しなかったグループをB、就職活動そのものをしなかったグループをCとしている（表2）。各グループに該当する人数は、グループAが17名、グループBが13名、グループCが19名となった。

仮説に関しては、「ソーシャル・サポート」「各種活動・アルバイト経験」「就職活動の内容」という3つの分析視点を挙げ、それぞれについて設定している。詳細は以下の通りであるが、図1にその要諦をまとめたものを示す。

#### 3-1. 仮説1：ソーシャル・サポート

留学生が異国の地で様々な不安を抱きながら生活をしていることは想像に難くない。留学生生活を送る上で、日本人学生であれば当たり前知っていることが、留学生には理

表2 分析対象のグルーピング

就職活動あり	30	正社員	16	グループA (17名)
		非正社員	1	
		進学 その他（帰国等） 決まっていない	3 1 9	グループB (13名)
就職活動なし	19	正社員	1	グループC (19名)
		進学	7	
		その他（帰国等） 決まっていない	5 6	
合計	49		49	

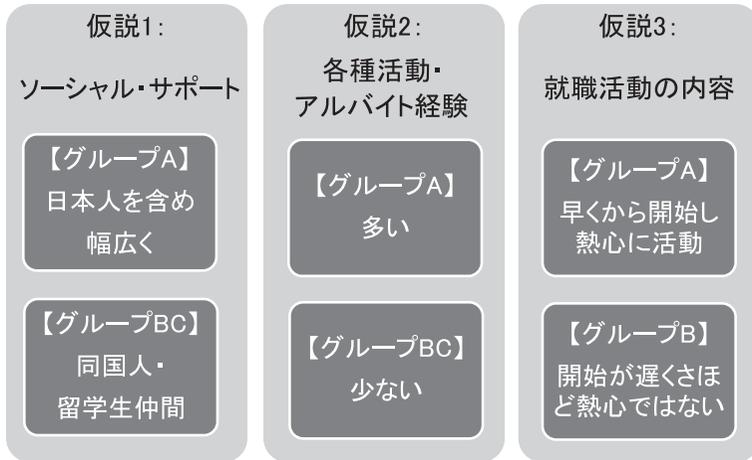


図1 検証仮説

解できず、それが就職活動にも影響を及ぼしていることも考えられる。様々なハンディキャップを背負っている留学生に対する働きかけが行き届いているかどうかなど、現状では十分に把握できていないことから、彼らを取り巻く社会的環境を通じて、各グループの特性を検証したい。留学生であることのハンディキャップを克服するためには、同国人や留学生仲間だけでなく、日本人学生をはじめ多種多様な支援者の力を幅広く借りることが有用であると考え、仮説1を以下のように設定する。

**仮説1：日本人や教職員の支援者を持つ留学生は、就職を決定できる可能性が高い。**

仮説の検証にあたっては、問6を利用し、普段の学生生活の中で、個人的な悩みを相談したり、困ったときに助けになってくれる人（日常の支援者）が外国人だけなのかそれとも日本人が含まれるのか、あるいは教職員がいるのかをグループごとに比較する。

### 3-2. 仮説2：各種活動・アルバイト経験

支援体制だけでは、留学生の現状を捉えることはできない。そもそも留学生に周囲の人々に関わろうとする自発性、積極性があったかどうかということ、就職活動の有無や就職決定の有無を軸に問う必要がある。大学や地域に溶け込み、地に足がついた生活を送ること、様々な活動を通じて日本人との交流を深めること、真面目に勉学に取り組むことが、日本人学生と共にこの地で就職活動を行い、社会に出ることを指向させることにつながると考えられるのではないか。このような観点から、仮説2を以下のように設定する。

**仮説 2：各種活動経験を持つ留学生は、就職を決定できる可能性が高い。**

仮説の検証にあたっては、各種活動とアルバイト経験という二方向からの分析を行う。第一に、問 2 を利用し、「体育会・部活動」「サークル・同好会の活動」「地域やボランティアの活動」「宗教関係の活動」に参加したかしなかったか、さらに参加した場合は、その活動メンバーに日本人が多かったか、外国人が多かったか、同じくらいだったかをグループごとに比較する。各種活動に積極的に参加し、同国人や留学生仲間などの外国人だけでなく日本人とも活動を共にすることが、就職活動や就職決定の原動力となっていることが予想される。

第二に、問 3、問 4、問 5 を利用して、アルバイト経験の有無、さらに経験がある場合は、最も長く続けたアルバイトの期間と週平均アルバイト時間についてグループごとに比較する。アルバイトという形で日本社会での就業を経験することを通じて、実践的な日本語を活用する機会が増加すると考えると、就職活動や就職決定には良い影響を及ぼすことが予想される。

### 3-3. 仮説 3：就職活動の内容

留学生は、就職活動をどのような内容で行っていたのだろうか。日本人学生と同様に、早くから熱心に行っている者、4年生（博士課程前期 2 年生）になって卒業（修了）要件をほぼ満たせる見通しがついてから、ゆっくり始めた者など様々だろう。また出身国の就職活動との違いから、日本式の就職活動に出遅れた可能性もある。就職活動の内容が、そのまま就職決定の有無に直接的な影響を及ぼすことは大いにあり得ることから、仮説 3 を以下のように設定する。

**仮説 3：日本人学生と同じ内容で就職活動を行う留学生は、就職を決定できる可能性が高い。**

仮説の検証にあたっては、就職活動をしたグループ A と B のみを対象とし、就職活動のペースと密度という二方向からの分析を行う。第一に、問 8、問 16、問 17 を利用して、「就職情報サイト（リクナビなど）に登録した」「学内外の企業説明会に参加した」「エントリーシートを提出した」「企業の面接を受けた」「はじめて内定をもらった」「就職活動を終えた」時期についてグループごとに比較する。留学生が出遅れることなく、日本人学生と同じペースで就職活動を展開できていれば、就職決定に結びついていないのではないか。

第二に、問 14 を利用して、「OB・OG 訪問した企業」「エントリーシートを送った企

業」「面接を受けた企業」「内定をもらった企業」がそれぞれ何社あったかをグループごとに比較する。これらについても、ある程度の数を経験しなければ、就職決定には結びつかないと予想されるため、グループごとに密度の高さには相応の差が生じていると考えられる。

#### 4. 仮説検証

まず仮説1「日本人や教職員の支援者を持つ留学生は、就職を決定できる可能性が高い」というソーシャル・サポートの側面を検証する。図2は、日常の支援者として同国人や留学生仲間などの外国人のみを選んだ者と、外国人に加えて日本人も選んだ者の割合を、それぞれグループごとに示したものである。

グループBとCに違いは見られなかったが、それらに比してグループAは、日本人を含む多種多様な日常の支援者を持っている割合がやや高くなっている。したがって、グループBとCは、グループAよりは同国人や留学生仲間など、同質性の高い人々からの支援を受けている傾向があると見られ、孤立はしていないが、日本社会への関わりの方が低いことがうかがえる。

一方、図3は、本学の教職員の中に日常の支援者がいる者といない者の割合を、グループごとに示したものである。こちらもやはりグループAが、本学の教職員からの支援を受けている割合がやや高い。どのグループも類似の傾向は示しているものの、グループAの日本社会への前向きな関わりが示唆される結果となっている。

次に仮説2「各種活動経験を持つ留学生は、就職を決定できる可能性が高い」という各種活動やアルバイトに対する自発性、積極性の側面を検証する。図4は、「体育会・部活動」「サークル・同好会の活動」「地域やボランティアの活動」「宗教関係の活動」

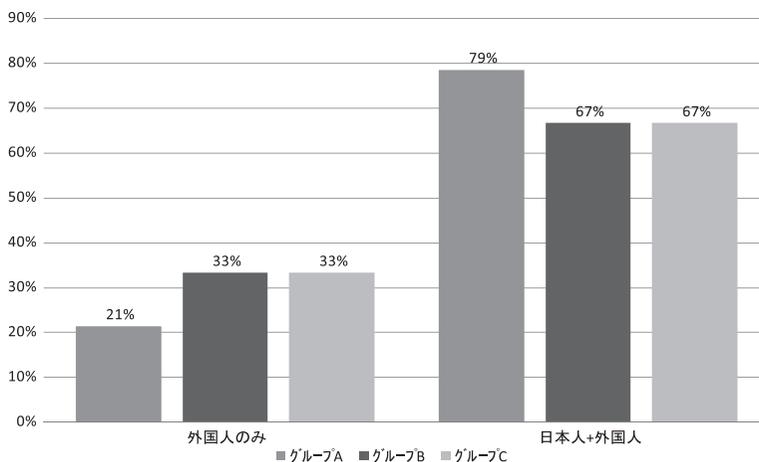


図2 日常の支援者

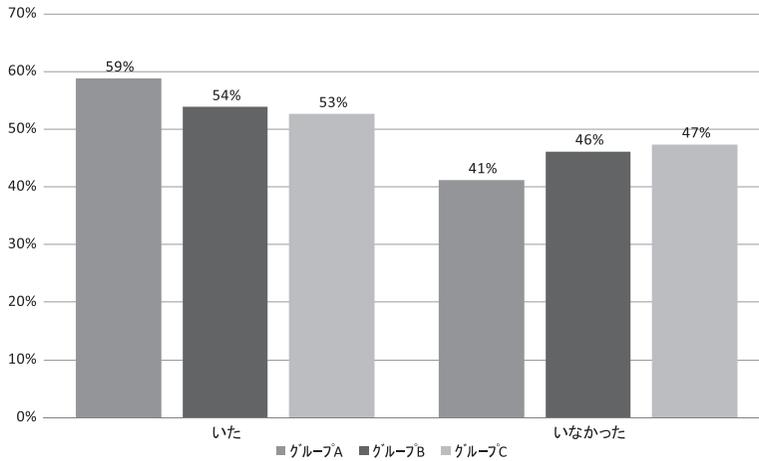


図3 教職員の支援者

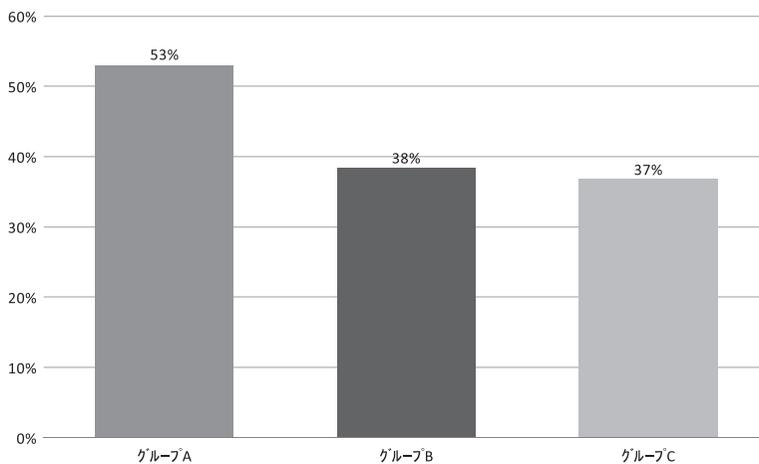


図4 各種活動への参加割合

のいずれかの活動に参加したことがある者の割合を、グループごとに示したものである。グループAは、各種活動に参加したことがある者の割合が最も高く、グループBとCはやや参加の程度が低い。グループAは、各種活動を通じて大学や地域に溶け込み、日本人とも交流を深めていたことがうかがえる。

さらに図5は、アルバイト経験がある者のうち、最も長く続けたアルバイトが2年以上の者の割合を、図6は、週平均アルバイト時間が20時間以上の者の割合を、それぞれグループごとに示したものである。グループBは、2年以上の長期にわたってアルバイトをしている者が多く、週当たりのアルバイト時間も20時間以上という長い者が多い。

実際に、アルバイトによる実践的な日本語を活用する機会の増加が、日本語能力の向上につながったという留学生の意見はある。しかし、最も熱心にアルバイトに取り組んでいたグループBが、就職活動を経ても就職を決定できていないことから、アルバイ

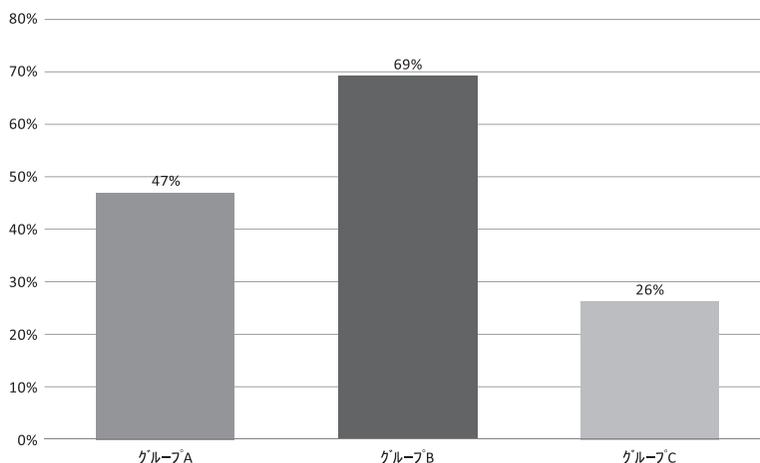


図5 最も長く続けたアルバイトが2年以上の者の割合

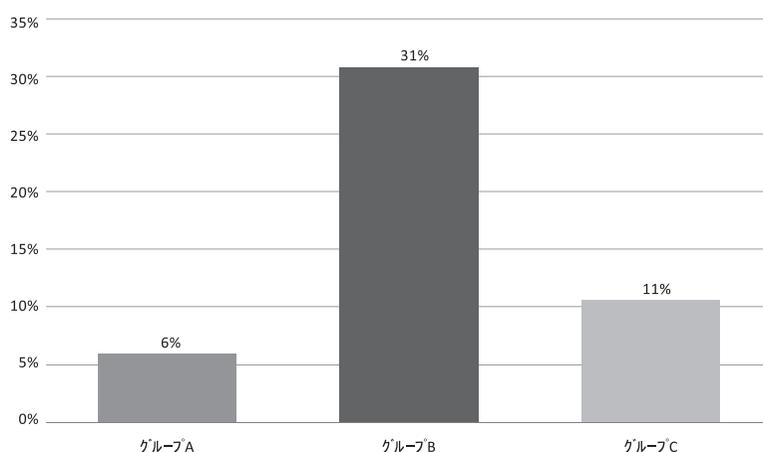


図6 週平均アルバイト時間が20時間以上の者の割合

ト経験が就職決定には活かされず、むしろ、アルバイトに没頭してしまう（あるいは没頭せざるを得ない）ことによる弊害が懸念されるといえよう。

最後に仮説3「日本人学生と同じ内容で就職活動を行う留学生は、就職を決定できる可能性が高い」という就職活動のペースと密度の側面を検証する。図7は、「就職情報サイト（リクナビなど）に登録した」「学内外の企業説明会に参加した」「エントリーシートを提出した」「企業の面接を受けた」「はじめて内定をもらった」「就職活動を終えた」時期について、卒業・修了時（2012年3月）より何か月前だったかを、それぞれグループごとに平均値で示したものである。就職活動を行った30名の個別の時期については、付録7-1を参照していただきたい。

また、図8は、「OB・OG訪問した企業」「エントリーシートを送った企業」「面接を受けた企業」「内定をもらった企業」がそれぞれ何社あったかを、それぞれグループごとに平均値で示したものである。こちらも就職活動をした30名の個別の接触（該当）

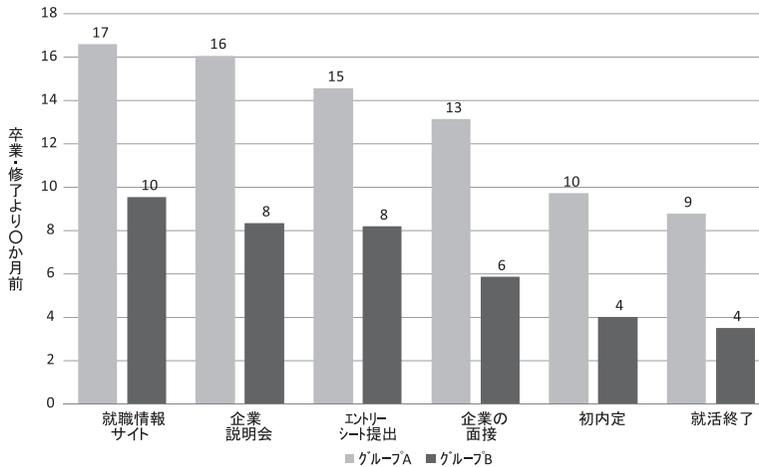


図7 各活動の開始・終了時期

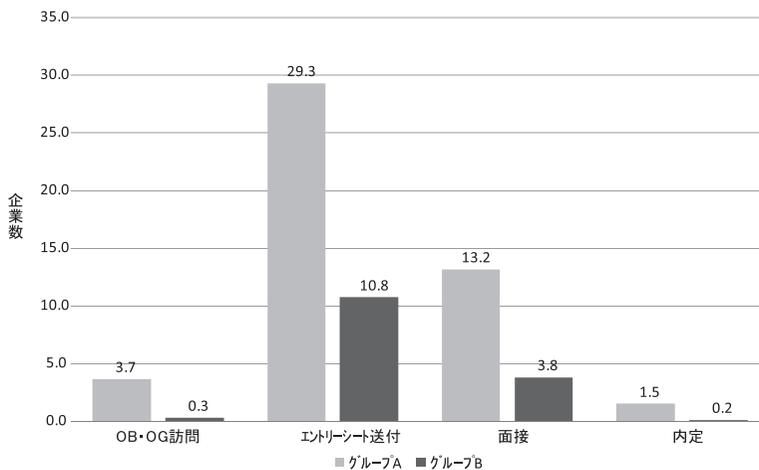


図8 各活動における接触(該当)企業数

企業数については、付録7-2を参照していただきたい。

これらを見ると、グループAは、就職活動を始める時期が早く、概ね2010年11月頃(17か月前)に就職情報サイトに登録し、2011年3月頃(13か月前)に企業の面接を受け、はじめての内定を6月頃(10か月前)に得て、7月頃(9か月前)に就職活動を終えている。これは、日本人学生とほぼ同じペースであり、接触した企業数も多い。

それに対してグループBは、半年以上出遅れており、概ね2011年6月頃(10か月前)に就職情報サイトに登録し、10月頃(6か月前)に企業の面接を受け、数少ない内定を12月頃(4か月前)にようやく得ている。グループBの中でも、学部生は3年生の秋から就職活動を始めている者が多いが、特に大学院生の出遅れが目立ち、博士課程前期2年生の春学期になってから就職情報サイトに登録を始めている者が多い。したがって、日本人学生とほぼ同じペース、密度で就職活動に取り組めるかどうか、就職決

定に大きく寄与しているといえる。

## 5. 考 察

以上の仮説検証を踏まえて、留学生で就職が決定している者としていない者について考察を行う。なお、考察にあたっては、有効回答者49名のうち、1名を除いて全員が文系学部・研究科に所属している点に留意しなければならない。

仮説1で明らかにしたように、ソーシャル・サポートとの関わりにおいて、就職が決定していない者は、外国人ネットワークの中で支援を受けるにとどまり、就職が決定している者は、多様な人々と交流する中で支援を受けていることが明らかになった。加えて、仮説2で明らかにしたように、多くの集団に積極的に関わる者、仮説3で明らかにしたように、日本人と同様に就職活動をしている者もまた、着実に就職を決定している。

これらのことから、留学生の自律性、換言すれば「大人度」によって、就職活動が順調に進むかが決まると考えられる。大人への社会化が遅れ、受け身になっている者、外部環境への働きかけができていない者が、就職活動に出遅れている可能性がある。ただし、全ての留学生が日本での就職を希望しているわけではない。卒業・修了後に出身国への帰国を予定している場合は、日本で就職活動をしようとは思わないだろう。そこで上記の「大人度」が低いと想定されるグループが、本気で日本での就職を希望しているのかどうかについて確認する。

図9は、問27を利用して、最終的にどこで働きたいと考えているかについて、「(日本を含む)出身国以外」を選んだ者、「出身国」を選んだ者、「まだ考えていない」を選んだ者の割合を、それぞれグループごとに示したものである(進学者を除く)。

これらを見ると、グループAは、日本式の就職活動を展開して就職を決めているだけに、6割以上の者が最終的に出身国以外で働くことを希望している。グループBもやはり6割程度が最終的に出身国以外で働くことを希望しているにもかかわらず、日本式の就職活動に対応できず就職が決められていないだけに、このグループには一層の就職に向けてのガイダンスが求められよう。

さらに、就職活動をしなかったグループCでさえも、最終的に出身国以外で働くことを希望している者が17%も存在している。しかし、このグループCは、概ね出身国に帰国して働くことを想定しているからこそ、就職活動をしなかったとも解釈できる。したがって、出身国に帰国して働くということが、どれほどの具体性を持っており、日本における留学の成果とどのように関連しているのかを問う必要があるだろう。

留学生は、出身国に帰国することで外部労働市場型の社会に戻ることが多く、日本の

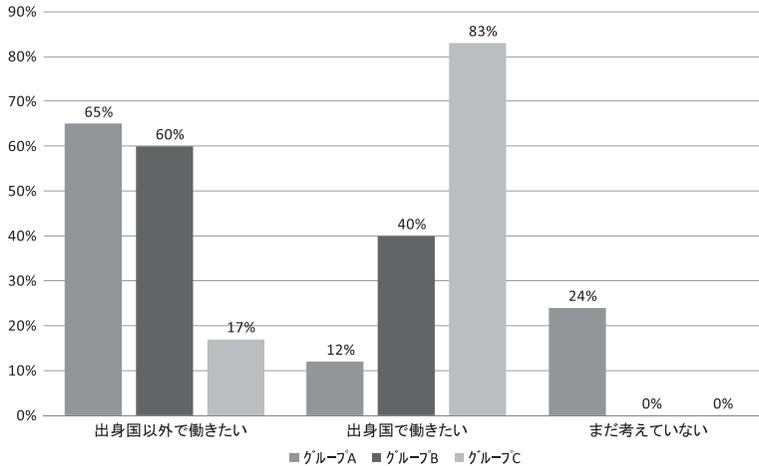


図9 最終的にどこで働きたいと考えているか（進学者を除く）

ような新卒一括採用による内部労働市場型の社会に適合する必要がないことが想定され、必死になって日本で就職先を探している者ばかりではないことが分かる。

ゆえに、最終的に日本で働きたいと考えている留学生の多くは、自律的に就職活動をし、就職を決めている一方で、出身国に帰国して働きたいと考えている留學生が、就職活動に積極的な姿勢を示していないといえる。卒業・修了から、最終的に出身国に帰国するプロセスを具体的に計画できていない者が、「日本式の就職活動」をしていないようである。

ここから導き出せる結論は、留學生といえども日本人と同様の「いまどき」の學生であり、大人への社会化が遅れているからこそ、社会への巣立ちを促す教育が必要であるという点である。

さらに、出遅れている留學生の多くが大学院生であることから、出身国などの大学を卒業後、来日して本学大学院に入学した留學生の場合、まだ外国人ネットワークに頼らざるを得ない時期に、早々と日本式の就職活動が始まり、波に乗り遅れているという可能性も見逃せない。

また、就職が決定しているグループAの留學生の出身学部・研究科に、経済、商、政策、ビジネススクールが多いことから、もともと仕事やビジネスに関心がある者が多く、その分就職活動に熱心である可能性があり、学部・研究科特性という点も考慮する必要がある。

これらのことから、将来的に出身国に帰国する予定の留學生のキャリアに、本学の教育や支援体制がどのように貢献できるかを検討すること、また、そのような留學生のキャリアプランを今後追加的に調べていく必要があること、そして、彼らが学んだことを自らのキャリアプランニングに活かせるような教育（働きかけ）を行うことが求められているのである。

## 6. おわりに

これまでに行ってきた分析、考察の結果、日本人学生と同様、受動的な留学生は、日本での就職を望んでいても、うまく波に乗れていないことが分かった。そのような留学生を対象とする就職活動支援プログラムなどの充実は言うまでもないが、彼らには「支援」をすること以上に、自律性向上を図るための「教育」や日本の就職活動、ひいては日本の慣習や文化に対する感覚を日常生活で自然に身につけられるような環境の構築が重要であると考えます。そこで、以下に5点ほど具体的な提案を示す。

第一に、留学生の自律性向上を図るためのペース作りを促進するための仕掛け（イベントなど）を提供することである。それと並行して、第二に、ペースメーカーを配置することも有用である。本学では、大学院には留学生のためのチューターが配置されているが、学部にも留学生のためにペースメーカーとなる日本人学生の配置が必要である。配置方法も、留学生とペースメーカーを1対1とするよりは、数名の留学生と数名のペースメーカー（支援グループ）という複数名同士で、多様な人々と関わるができる状況を設定し、狭い人間関係で悩むことのないように配慮する。

これは、ペースメーカーになる日本人学生に対しても、留学生と触れ合うことで、異文化への理解や自身の外国への関心の高まりなどの教育効果が期待できる。奨学金を受けている日本人学生が少ない中で、貴重な学内アルバイトの機会として捉えることもできよう。

また、大学院生については、チューターとして配置される日本人大学院生の多くが就職活動未経験者であることから、就職活動の情報源としては力不足であり、むしろ学部の日本人学生のペースメーカーがいる支援グループの方が、それらの情報が潤沢である可能性が高い。4年生に、臨時で秋学期後半に就職活動の情報提供のアルバイトを依頼するのも効果的だろう。

第三に、ゼミ担当教員とは別に、入学から卒業まで一貫して当該留学生の指導に当たる担任の教員を配置することである。たとえば、学生主任などが担当するのが最も現実的だろう。留学生は、各学年に数名しか在籍していないため、教員1名に何名もの留学生の負担がかかるとは考えにくく、学年が上がってゼミに所属すれば、その分負担が軽減されることが期待できる。ゼミに所属する前の低学年の段階においてこそ、きめ細かい面倒見が求められることから、日本人学生のペースメーカーと共に、責任を持った教員による関わりも実現していくべきである。

第四に、キャリア支援の一層の強化を試みることである。日本式の就職活動がよく分かっていない留学生が出遅れていることが多く、特に学部時代を日本で過ごしていない

大学院生にとっては、大学院生活に適応し始めたばかりの1年目の秋学期から就職活動を開始するのは、非常に困難なことと思われる。また、付録7-3の自由回答にもあるが、東京などで就職をしようと考えた場合、経済的負担が極めて大きくなるということも、彼らは関知していない。

これらのことから、少なくとも日本式の就職活動に関するガイダンスを、入学して少し落ち着いた頃と3年生春学期の2回程度は行う必要がある。博士課程前期の大学院生は、入学した年の秋学期が就職活動開始時期に当たるため、勉強をしようと思って入学して半年で、自ら就職活動をしなければいけないと考え、行動に移すことがどれだけ厳しいかは自明である。入学直後から進路について相談に乗り、日本での就職を希望する場合は出遅れないように支援する体制が望まれよう。

第五に、出身国に帰国する予定の留学生が、卒業・修了後、どのようなキャリアパスを設計しているのかを把握し、実際に日本で学んだことを活かしてキャリア形成ができているのかなどの卒業・修了後のフォローアップ（追跡調査）やネットワーク作りを行う必要がある。日本人学生に対しても同じであるが、大学は学生たちを社会に送り出すことで使命を終えるわけではなく、大学で授けた教育が学生たちの中で芽吹き、活かされ、社会に還元されてこそ、その使命を果たしたといえるのではないか。そういう意味では、留学生が本学で学んだことが、グローバル社会の中でどのように発揮されているのかを検証し、今後の教育にフィードバックしていくことは不可欠である。

そのためにも、この調査を継続的に行うことが如何に重要であるかは論を待たない。今回は調査時期が若干遅かったこともあり、十分なデータ数が確保できたとは言い難い。ただし、同調査を今後も続けて実施し、データが蓄積されていけば、より正確な留学生の就職状況・進路の把握や、より精緻な分析を試みる事が可能となる。外国から子供を日本の大学に送り出す親からすれば、大学卒業後にどのような進路が見込まれるかが最大の関心事である。もしそれが大学できちんと把握されておらず、入学の判断材料となる情報が受験生や親に十分に提供されなければ、本学への進学を躊躇しても不思議ではない。すなわち、ただ留学生への門戸を広げるだけでなく、出口（進路）の実態をきちんと捉え、そのことに裏づけられた教育や支援体制を整備していくことが、大学としての責任であり、グローバリゼーションに対応できる真の大学国際化に向けた歩みなのではないだろうか。

#### 注

- (1) 日本語以外の言語で授業を受けられるコースの留学生は、この限りでない。
- (2) なお、留学生は秋学期末試験終了後、卒業式まで一旦帰国する、あるいはそのまま帰国してしまうこともあるため、調査時期に関しては、今後は3月ではなく、就職活動が一段落する前年（卒業年度）の12月辺りが望ましいと考える。

## 7. 付 録

## 7-1. 各活動の開始・終了時期（詳細）

	2010年				2011年				2012年				備考														
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
学部	1				a	b		c	d																		
	2	d			a, b, c			①																			
	3	a, b					c			d	①																
	4		a	b		c		d				①															
	5				b		a		c		d		①														
	6					a, b		c		d		①															
グループA	7				a, b				c				d														
	8							a	b, c	d				①,②													
	9					a					b, c, d																
	10							a			b, c	d															
	11					a		b				c, d															
	12											a			b, c		d, ①, ②										
	13							a			b, c	d															
	14					a			b, c		d																
	15							a		b, c			d														
	16					a		c				b, d															
17				a		b			c		d																
学部	18				a, b			c, d																			
	19				a		c		b		d																
	20																a, b		c, d								
	21									a																	
	22																										
	23																a, b, c	d									
グループB	24															a	b		c, d, ①								
	25																										
	26									a							b, c		d								
	27										b	c, d															
	28											a		b	c										d		②
	29																a	c		b, d							
	30																									d	

a. 就職情報サイトに登録, b. 学内外の企業説明会に参加, c. エントリーシート提出, d. 面接受験, ①はじめて内定をもらった時期, ②就職活動を終えた時期

## 7-2. 各活動における接触（該当）企業数（詳細）

		性別	OB・OG 訪問 をした企業数	エントリー シートを 送った企業数	面接を 受けた 企業数	内定を もらった 企業数	外国で 働く予定 (問 24)	労働期間 (問 25)	最終的にどこ で働きたいか (問 27)		
グループ A	学部	1	男	0	10	8	2		10年～	日本	
		2	男	40	70	40	3	全世界	5～10年	考えていない	
		3	男	0	50	15	2		10年～	第三国	
		4	女	3					10年～	第三国	
		5	男	0	40	15	3	スイス	10年～	出身国	
		6	男	10	60	20	3		10年～	第三国	
	博士前期	7	男	3	15	10	1		3～5年	日本	
		8	男	0	20	10	1		10年～	考えていない	
		9	男	0	20	12	1		3～5年	第三国	
		10	男	0	5	2	1		10年～	考えていない	
		11	女	0	15	6	1		10年～	日本	
		12	女	0	3	1	1		3～5年	考えていない	
		13	男	3	12	5	1		10年～	日本	
		博士後期	14	女	0	30	10	1		10年～	日本
			15	男	0	80	40	1	BRIC'S	10年～	日本
			16	女					中国	5～10年	第三国
			17	男	0	10	4	1	グローバル	5～10年	出身国
グループ B	学部	18	女	2	20	6	0			出身国	
		19	女	0	8	3	1			日本	
		20	男	0	30	10	0			日本	
		21	女	0	0	7	0			日本	
		22	男	0	10	5	0			出身国	
		23	女	0	3	1	0			日本	
	博士前期	24	女	0	4	2	1			日本	
		25	男	0	0	2	0			出身国	
		26	男	0	7	3	0			出身国	
		27	男	0	3	2	0			第三国	
		28	女	1	5	1	0			第三国	
		29	女	0	30	7	0			日本	
博士後期	30	女	1	20	1	0			日本		

## 7-3. 単純集計表および自由回答

問1 あなたの学生 ID を記入してください。

(省 略)

問2 あなたは、同志社大学在学中に (a)～(d) の活動に参加しましたか。また、「1. 参加した」と答えた活動について、その活動メンバーには日本人と外国人のどちらの方が多かったですか。

(a) 体育会・部活動

	度数	%		度数	%
参加した	5	10.2	N.A.	2	4.1
参加しなかった	42	85.7	Total	49	100.0
	度数	%		度数	%
日本人が多かった	4	8.2	非該当	42	85.7
外国人が多かった	1	2.0	N.A.	2	4.1
同じぐらいだった	0	0.0	Total	49	100.0

(b) サークル・同好会の活動

	度数	%		度数	%
参加した	9	18.4	N.A.	1	2.0
参加しなかった	39	79.6	Total	49	100.0
	度数	%		度数	%
日本人が多かった	5	10.2	非該当	39	79.6
外国人が多かった	3	6.1	N.A.	1	2.0
同じぐらいだった	1	2.0	Total	49	100.0

(c) 地域やボランティアの活動

	度数	%		度数	%
参加した	11	22.4	N.A.	2	4.1
参加しなかった	36	73.5	Total	49	100.0
	度数	%		度数	%
日本人が多かった	8	16.3	非該当	36	73.5
外国人が多かった	1	2.0	N.A.	3	6.1
同じぐらいだった	1	2.0	Total	49	100.0

(d) 宗教関係の活動

	度数	%		度数	%
参加した	4	8.2	N.A.	2	4.1
参加しなかった	43	87.8	Total	49	100.0
	度数	%		度数	%
日本人が多かった	2	4.1	非該当	43	87.8
外国人が多かった	1	2.0	N.A.	3	6.1
同じぐらいだった	0	0.0	Total	49	100.0

問3 あなたは、同志社大学在学中にアルバイトをしましたか。

	度数	%		度数	%
はい	42	85.7	いいえ	7	14.3
			Total	49	100.0

問4 問3で「1」と答えた人に、最も長く続けたアルバイトについてお聞きします。あなたは、どのくらいの期間、そのアルバイトをしましたか。

	度数	%		度数	%
3ヶ月未満	1	2.0	2年以上2年半未満	8	16.3
3ヶ月以上半年未満	3	6.1	2年半以上3年未満	4	8.2
半年以上1年未満	3	6.1	3年以上	10	20.4
1年以上1年半未満	3	6.1	非該当	7	14.3
1年半以上2年未満	10	20.4	Total	49	100.0

問5 あなたは、平均して週に何時間くらい、そのアルバイトをしましたか。

	度数	%		度数	%
5時間未満	7	14.3	20時間以上25時間未満	7	14.3
5時間以上10時間未満	8	16.3	25時間以上	0	0.0
10時間以上15時間未満	8	16.3	非該当	7	14.3
15時間以上20時間未満	12	24.5	Total	49	100.0

問6 普段の学生生活の中で、個人的な悩みを相談したり、困ったときに助けになってくれる人はいましたか。あてはまる人すべてに○をつけてください。

	あてはまる		あてはまらない	
	度数	%	度数	%
日本人学生	31	63.3	18	36.7
出身国の人（留学生含む）	36	73.5	13	26.5
それ以外の国の人（留学生含む）	9	18.4	40	81.6
家族・親戚	21	42.9	28	57.1
本学教員	25	51.0	24	49.0
留学生課の職員	5	10.2	44	89.8
その他の本学職員	2	4.1	47	95.9
その他の日本人	12	24.5	37	75.5
その他*	1	2.0	48	98.0
特にいなかった	2	4.1	47	95.9

\*「友人」(1名)、「留学生担当教授」(1名)

問7 あなたは就職活動をおこないましたか。

	度数	%		度数	%
はい	30	61.2	就活はしていないが就職先はある	1	2.0
いいえ	18	36.7	Total	49	100.0

問8 問7で「1」と答えた人にお聞きします。あなたが、次のようなことをはじめておこなったのはいつでしたか。それぞれ何年の何月ごろかをお答えください。おこなわなかった場合は、「していない → 9」に○をつけてください。

(a) 就職情報サイト（リクナビなど）に登録した

	度数	%		度数	%
した	29	59.2	非該当	19	38.8
していない	1	2.0	Total	49	100.0

はじめておこなった年月：

	度数	%		度数	%
2010年6月	1	2.0	2011年3月	1	2.0
2010年7月	1	2.0	2011年4月	3	6.1
2010年9月	1	2.0	2011年8月	1	2.0
2010年10月	9	18.4	2011年10月	1	2.0
2010年11月	1	2.0	2011年11月	2	4.1
2010年12月	2	4.1	2011年12月	3	6.1
2011年1月	1	2.0	非該当	20	40.8
2011年2月	1	2.0	N.A.	1	2.0
			Total	49	100.0

(b) 学内外の企業説明会に参加した

	度数	%		度数	%
した	30	61.2	非該当	19	38.8
していない	0	0.0	Total	49	100.0

はじめておこなった年月：

	度数	%		度数	%
2010年6月	1	2.0	2011年5月	1	2.0
2010年8月	1	2.0	2011年6月	1	2.0
2010年9月	1	2.0	2011年7月	1	2.0
2010年10月	5	10.2	2011年9月	1	2.0
2010年11月	1	2.0	2011年10月	2	4.1
2010年12月	1	2.0	2011年12月	3	6.1
2011年1月	2	4.1	2012年1月	1	2.0
2011年2月	2	4.1	非該当	19	38.8
2011年3月	3	6.1	N.A.	2	4.1
2011年4月	1	2.0	Total	49	100.0

(c) エントリーシートを提出した

	度数	%		度数	%
した	29	59.2	非該当	19	38.8
していない	1	2.0	Total	49	100.0

はじめておこなった年月：

	度数	%		度数	%
2010年10月	2	4.1	2011年6月	2	4.1
2010年11月	2	4.1	2011年7月	1	2.0
2010年12月	3	6.1	2011年9月	2	4.1
2011年1月	3	6.1	2011年10月	1	2.0
2011年2月	4	8.2	2012年2月	3	6.1
2011年3月	1	2.0	非該当	20	40.8
2011年4月	3	6.1	N.A.	2	2.0
			Total	49	100.0

(d) 企業の面接を受けた

	度数	%		度数	%
受けた	30	61.2	非該当	19	38.8
受けていない	0	0.0	Total	49	100.0

はじめておこなった年月：

	度数	%		度数	%
2010年6月	1	2.0	2011年9月	2	4.1
2010年12月	2	4.1	2011年10月	1	2.0
2011年1月	1	2.0	2011年11月	1	2.0
2011年2月	1	2.0	2012年1月	1	2.0
2011年3月	7	14.3	2012年2月	2	4.1
2011年4月	3	6.1	2012年3月	3	6.1
2011年5月	3	6.1	非該当	19	38.8
2011年8月	1	2.0	N.A.	1	2.0
			Total	49	100.0

問9 就職活動の仕方（エントリーの仕方やエントリーシートの書き方、企業情報の収集、面接など）について、誰かに相談しましたか。あてはまる人すべてに○をつけてください。

	あてはまる		あてはまらない		非該当	
	度数	%	度数	%	度数	%
日本人学生	17	34.7	13	26.5	19	38.8
出身国の（留学生含む）	16	32.7	14	28.6	19	38.8
それ以外の国の（留学生含む）	5	10.2	25	51.0	19	38.8
家族・親戚	5	10.2	25	51.0	19	38.8
本学教員	11	22.4	19	38.8	19	38.8
留学生課の職員	1	2.0	29	59.2	19	38.8
キャリアセンターの職員	14	28.6	16	32.7	19	38.8
その他の本学職員	2	4.1	28	57.1	19	38.8
その他の日本人	6	12.2	24	49.0	19	38.8
その他	0	0.0	30	61.2	19	38.8
特に相談しなかった	4	8.2	26	53.1	19	38.8

問10 就職活動をはじめたころ、次のようなことをどのくらい重視していましたか。それぞれについてあてはまるものを1つ選び、○をつけてください。

	重視していた		少し重視していた		あまり重視していなかった		重視していなかった	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
(a) 職種・仕事内容	24	49.0	6	12.2	0	0.0	0	0.0
(b) 給与	10	20.4	11	22.4	9	18.4	0	0.0
(c) 企業規模*	12	24.5	10	20.4	6	12.2	1	2.0
(d) 企業の知名度	11	22.4	12	24.5	5	10.2	2	4.1
(e) 勤務地	13	26.5	6	12.2	7	14.3	4	8.2
(f) 企業の将来性	23	46.9	6	12.2	1	2.0	0	0.0
(g) 語学力をいかにせる	17	34.7	8	16.3	3	6.1	2	4.1
(h) 大学での専門分野との関連	9	18.4	10	20.4	7	14.3	4	8.2
(i) 自分の能力や適性と合っている*	20	40.8	6	12.2	3	6.1	0	0.0
(j) 将来役立つ技術、経営などを学ぶことができる	11	22.4	14	28.6	5	10.2	0	0.0
(k) 出身国と関連する仕事ができる	15	30.6	7	14.3	4	8.2	4	8.2
(l) 同じ出身国の人が働いている	0	0.0	5	10.2	10	20.4	15	30.6

\* (a)～(l) について、「非該当」は19名(38.8%)である。また、「(c) 企業規模」について、「指定外」1名(2.0%)、「(i) 自分の能力や適性と合っている」について、「N.A.」1名(2.0%)となっている。

問11 就職活動中、キャリアセンターが提供するサービスを利用しましたか。

	度数	%		度数	%
利用した	23	46.9	非該当	19	38.8
利用しなかった	7	14.3	Total	49	100.0

問12 問11で「1」と答えた人にお聞きします。キャリアセンターが提供するサービスのうち、何を利用しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

	あてはまる		あてはまらない		非該当	
	度数	%	度数	%	度数	%
資料(本や雑誌、企業情報)	10	20.4	13	26.5	26	53.1
求人票	5	10.2	18	36.7	26	53.1
進路相談	4	8.2	19	38.8	26	53.1
履歴書、エントリーシート相談	11	22.4	12	24.5	26	53.1
面接相談	4	8.2	19	38.8	26	53.1
学内での企業説明会、セミナー、ガイダンス	12	24.5	11	22.4	26	53.1
インターンシップに関する相談	2	4.1	21	42.9	26	53.1
キャリアカウンセラーによる相談	1	2.0	22	44.9	26	53.1
e-career、キャリアセンターのHP	11	22.4	12	24.5	26	53.1
その他	0	0.0	23	46.9	26	53.1

問 13 問 11 で「2」と答えた人にお聞きします。キャリアセンターが提供するサービスを利用しなかった理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

	あてはまる		あてはまらない		非該当	
	度数	%	度数	%	度数	%
キャリアセンターの存在を知らなかった	1	2.0	6	12.2	42	85.7
キャリアセンターの場所がわからなかった	2	4.1	5	10.2	42	85.7
キャリアセンターの情報量が少ない	1	2.0	6	12.2	42	85.7
キャリアセンターの利用の仕方がわからなかった	3	6.1	4	8.2	42	85.7
知りたいと思うことがなかった	2	4.1	5	10.2	42	85.7
その他*	1	2.0	6	12.2	42	85.7

\* 「行く時間がない」(1名)

問 14 就職活動中、いくつの企業と次のようなことがありましたか。まったくなかった場合は0(ゼロ)と記入してください。

(a) OB・OG 訪問をした企業

	度数	%		度数	%
0社	20	40.8	10社	1	2.0
1社	3	6.1	40社	1	2.0
2社	2	4.1	非該当	19	38.8
3社	3	6.1	N.A.	2	4.1
			Total	49	100.0

(b) エントリーシートを送った企業

	度数	%		度数	%
0社	2	4.1	20社	4	8.2
3社	3	6.1	30社	3	6.1
4社	1	2.0	40社	1	2.0
5社	2	4.1	50社	1	2.0
7社	1	2.0	60社	1	2.0
8社	1	2.0	70社	1	2.0
10社	3	6.1	80社	1	2.0
12社	1	2.0	非該当	19	38.8
15社	2	4.1	N.A.	2	4.1
			Total	49	100.0

## (c) 面接を受けた企業

	度数	%		度数	%
1社	4	8.2	10社	4	8.2
2社	4	8.2	12社	1	2.0
3社	2	4.1	15社	2	4.1
4社	1	2.0	20社	1	2.0
5社	2	4.1	40社	2	2.0
6社	2	4.1	非該当	19	38.8
7社	2	4.1	N.A.	2	4.1
8社	1	2.0	Total	49	100.0

## (d) 内定をもらった企業

	度数	%		度数	%
0社	11	22.4	3社	3	6.1
1社	12	24.5	非該当	19	38.8
2社	2	4.1	N.A.	2	4.1
			Total	49	100.0

**問 15** 問 14 (a) で 0 (ゼロ) 以外の数字を記入した人にお聞きします。OB・OG 訪問をした企業のうち、相手をしてくれた OB・OG が、あなたと同じ出身国の人だった企業は何社ですか。問 14 (a) で 0 (ゼロ) と記入した人は、ここでも 0 (ゼロ) と記入してください。

	度数	%		度数	%
0社	24	49.0	N.A.	6	12.2
非該当	19	38.8	Total	49	100.0

**問 16** はじめて内定をもらったのは、何年の何月ですか。内定をもらっていない場合は、「2 もらっていない」に○をつけてください。

	度数	%		度数	%
もらった	19	38.8	非該当	19	38.8
もらっていない	9	18.4	N.A.	2	4.1
			Total	49	100.0

はじめて内定をもらった年月：

	度数	%		度数	%
2011年1月	1	2.0	2011年8月	2	4.1
2011年3月	1	2.0	2011年10月	3	6.1
2011年4月	3	6.1	2012年1月	1	2.0
2011年5月	3	6.1	2012年2月	1	2.0
2011年6月	1	2.0	非該当	28	57.1
2011年7月	3	6.1	N.A.	2	4.1
			Total	49	100.0

問 17 就職活動を終えたのは、何年の何月ですか。現在も就職活動を続けている場合は、「2 継続中」に○をつけてください。

	度数	%		度数	%
就職活動を終えた	21	42.9	非該当	19	38.8
就職活動継続中	8	16.3	N.A.	1	2.0
			Total	49	100.0

就職活動を終えた年月：

	度数	%		度数	%
2011年4月	1	2.0	2012年1月	1	2.0
2011年5月	2	4.1	2012年2月	1	2.0
2011年6月	5	10.2	2012年3月	2	4.1
2011年7月	4	8.2	非該当	27	55.1
2011年8月	3	6.1	N.A.	1	2.0
2011年10月	2	4.1	Total	49	100.0

問 18 卒業後の進路について、現時点で予定しているもの1つに○をつけてください。

	度数	%		度数	%
正社員として就職	17	34.7	その他*	10	20.4
非正社員として就職	1	2.0	決まっていない	12	24.5
進学	9	18.4	Total	49	100.0

\* 「また留学」(1名), 「帰国」(4名), 「起業」(1名), 「就職活動を継続する」(1名), 「出身国で就活」(1名), 「出身国で就職」(1名)

問 19 問 18 で「1~2」と答えた人にお聞きします。卒業後に就職することが内定している企業・団体名(以下、内定先とよびます)を下記の欄に記入してください。

(省 略)

問 20 内定先でのあなたの働き方は、次のどれにあてはまりますか。もっとも近いものを1つ選び、○をつけてください。

	度数	%		度数	%
総合職	13	26.5	その他*	1	2.0
地域限定総合職	0	0.0	わからない	0	0.0
一般職	2	4.1	非該当	31	63.3
技術職	2	4.1	Total	49	100.0

\* 「事務職」(1名)

問 21 内定先をはじめて知ったきっかけは、次のどれですか。もっとも近いものを1つ選び、○をつけてください。

	度数	%		度数	%
インターネット	2	4.1	求人票	1	2.0
出身国の知り合いの紹介	0	0.0	企業説明会, セミナー, ジョブフェア	2	4.1
日本人の知り合いの紹介	5	10.2	新聞, 雑誌	1	2.0
家族, 親戚の紹介	1	2.0	その他*	5	10.2
本学教員の紹介	0	0.0	非該当	31	63.3
本学職員の紹介	1	2.0	Total	49	100.0

\* 「アルバイト先」(1名), 「もともと知っていた famous!」(1名), 「前から」(1名), 「兵役中」(1名)

問 22 内定先に就職しようと思った決め手は何ですか。あてはまるもの3つに○をつけてください。

	あてはまる		あてはまらない		非該当	
	度数	%	度数	%	度数	%
職種・仕事内容	13	26.5	5	10.2	31	63.3
給与	3	6.1	15	30.6	31	63.3
企業規模	3	6.1	15	30.6	31	63.3
企業の知名度	1	2.0	17	34.7	31	63.3
勤務地	0	0.0	18	36.7	31	63.3
将来性	6	12.2	12	24.5	31	63.3
企業や社員の雰囲気	5	10.2	13	26.5	31	63.3
語学力をいかせる	1	2.0	17	34.7	31	63.3
大学での専門分野との関連	3	6.1	15	30.6	31	63.3
自分の能力や適性と合っている	4	8.2	14	28.6	31	63.3
将来役立つ技術, 経営などを学ぶことができる	4	8.2	14	28.6	31	63.3
出身国と関連する仕事ができる	5	10.2	13	26.5	31	63.3
家族・親戚にすすめられて	0	0.0	18	36.7	31	63.3
家族・親戚以外の人にすすめられて	0	0.0	18	36.7	31	63.3
その他*	2	4.1	16	32.7	31	63.3
特になし	0	0.0	18	36.7	31	63.3

\* 「やりたかった仕事ができるから」(1名), 「内定をもらったところがこしかなかった」(1名)

問 23 内定先において、最初に勤務（もしくは研修）することになっている場所（都道府県名）を記入してください。

場所：

	度数	%		度数	%
日本	16	32.7	未定	1	2.0
日本以外	1	2.0	非該当	31	63.3
			Total	49	100.0

都道府県：

	度数	%		度数	%
岡山県	1	2.0	東京都	8	16.3
京都府	3	6.1	兵庫県	1	2.0
滋賀県	1	2.0	非該当	33	67.3
大阪府	2	4.1	Total	49	100.0

問 24 あなたは内定先から、今後、外国で働く予定があると言われていていますか。言われている場合は、国名も記入してください。

	度数	%		度数	%
言われている	5	10.2	非該当	31	63.3
言われていない	13	26.5	Total	49	100.0

国名：

	度数	%		度数	%
BRIC'S	1	2.0	全世界	1	2.0
グローバル	1	2.0	中国	1	2.0
スイス	1	2.0	非該当	44	89.8
			Total	49	100.0

問 25 あなたは内定先において、どのくらいの期間働こうと考えていますか。

	度数	%		度数	%
3年以上5年未満	3	6.1	10年以上	11	22.4
5年以上10年未満	4	8.2	非該当	31	63.3
			Total	49	100.0

問 26 あなたは卒業後の進路に満足していますか。それとも不満ですか。

	度数	%		度数	%
満足	10	20.4	どちらかといえば不満	0	0.0
どちらかといえば満足	5	10.2	不満	0	0.0
どちらともいえない	3	6.1	非該当	31	63.3
			Total	49	100.0

問 27 あなたは、最終的にどこで働きたいと考えていますか。

	度数	%		度数	%
日本で働きたい	19	38.8	日本や出身国以外の国で働きたい	8	16.3
出身国で働きたい	16	32.7	まだ考えていない	6	12.2
			Total	49	100.0

## 問 28 学生生活を振り返ると、全般的に満足できるものでしたか。

	度数	%		度数	%
満足	16	32.7	どちらかといえば不満	2	4.1
どちらかといえば満足	24	49.0	不満	0	0.0
どちらともいえない	7	14.3	Total	49	100.0

## 問 29 学生生活や就職活動を振り返って、同志社大学が行っている生活・キャリア指導の良い点（取り組み）や改善が必要と思われる点（取り組み）がありましたら、自由に記入してください。

- ・エントリーシート、面接などについて、いろいろ分析してもらって、自分に一番適しているアドバイスしてもらえたので、とても役に立ったと思います。
- ・キャリアセンターから定期的にメールが届くのでとても便利です。留学生別科より大学院の留学生向けのイベントが少なかったです。
- ・キャリアセンターには、留学生の為に、留学生専用の窓口を設置すれば、もっと相談しやすいと思っています。
- ・キャリアセンターの大切さをより広く知らせてほしいです。多くの留学生はキャリアセンターの重要性を意識していません。
- ・キャリア面では、全体的に留学生への対応ができています。しかし、生活面においては正規学生より短期留学生（exchange）の方をサポートしている気がして、残念でした。もっと、正規の留学生たちにもサポートしてもらえたらと思います。
- ・もっとインターンシップの取り組みを留学生に紹介してほしいです。
- ・一度就職を考えた時、キャリアセンターで登録したら時々就職に役に立つ情報を受け取っていました。ありがたいと思います。
- ・学校のホームページにあるキャリアセンターの情報が大変役に立った。
- ・学生の相談相手を one-one で作ってもらえればと思っています。（例えば、生活、将来の進路に困った時に、相談に乗ってもらう人がいれば助かります。）今まで誰と相談すればよいか分からなくて、すべてゼミの先生と相談しました。良い点：ゼミの先生に大変お世話になりました。
- ・現時点では非常に満足しています。ただこれからもっと多くの留学生の方々が日本にこられてそして同志社に入学するという事は、生活面や学習面の問題も伴ってくると思いますのでどう対応するのかはあらかじめ考えないといけないのでここで申し上げます。
- ・就活は行っていないため何とも言えないのですが、学生生活については楽しい点も多かったと思います。ありがとうございました。改善点は特にありません。ただ、これからは留学生の数が増えることを承知しております。後輩がもっと楽しめるキャンパスになれることを期待しています。
- ・就職活動について、キャリア指導の先生から詳しい会社情報もらえる。就職活動の目標を確定しやすいです。
- ・就職活動はまだはじまってないのですが、どうしたらいいか、分からなくて、これについてもっと教えて欲しいです。
- ・親切だった。
- ・卒業の後も、まだ日本のキャリア（仕事）を紹介してほしいです。国へ帰るが、日本で働きたいです。
- ・大学院の留学生に対して、学校の活動がすくない。
- ・丁寧な指導していただきました。いろいろ就職情報を知らせていただいたことも非常に助かりました。とくにエントリーシート（志望動機など）の書き方や、面接の注意点など貴重な意見や指導を受けさせていただきました。

- ・留学生が多いので、生活の相談に乗ってくれる人があるかどうか、わからない。
- ・留学生として一番困るときは、経済的に悩む時ですね。その時に本当に助けられることが奨学金制度です。同志社の場合は、全体的に管理されていますが、それを一括で管理するよりも、まずは学生全部に公開して、そこから選ぶと「どうかな・・・」と思います。何年間もずっと続けてもらっている人はずっともらっているが、そうではない人は奨学金を申請することまで知らずに何ももらわず終わってしまうケースがいくつかありましたので、奨学金制度を一般に広げて誰でも申請することができますようにおねがいします。2年間本当に私は助けられましたので、それを他の学生にも機会を与えてください。
- ・留学生の特別な事情を考えた上で、もっと積極的に対応すべきではないかと思う。異国にいる苦労を理解していただきたい。
- ・留学生課がもう少し親切に留学生を相手にして頂けたらと思います。
- ・留学生宿舎について①鉄道のそばにあつてうるさい ②机が低い ③入居制度がおかしい。卒業式がまだ終わってないうちに、部屋を出なればいけないというので、学生にとっては不便！
- ・良い点：①勉強する雰囲気がいい大学だと思います。②設備も充実した学校だと感じます。古い本もそろっています。改善が必要と思う点：①新しい専門書をもっと用意した方がいいと思います。
- ・良い点：学生の悩みなど丁寧に聞いて、解決方法をよく提供してくれました。
- ・良い点：企業情報はけっこう多いと思います。学内セミナーもけっこう参加したので、良かったと思います。改善点：留学生向けの説明会は少ないので、就活のはじめのころ、何をすればいいのか、困っていました。
- ・良い点：留学生交流パーティの開催 改善点：留学生向けのキャリア指導が不足していると思います。

	度数	%		度数	%
回答	26	53.1	無回答	23	46.9
			Total	49	100.0

**問 30** 留学生在日本で就職活動を行う上で、戸惑った点や困った点があれば、自由に記入してください。

- ・エントリーシートの書き方、日本人の考え方（服装自由と書いてあったが日本人はみんなスーツだった）、就職活動で準備しておいたほうがいいもののお知らせ。（前の年の10月ごろに自己分析など）。
- ・日本人の学生さんと比べ、年齢が高い。留学生可の求人先が少ない。
- ・ESの書き方や、面接の注意点など分からない。相談相手も少ない。就活に必要なお金が足りない（経済的負担）。
- ・SPIと面接の方、もっと詳細欲しいです。
- ・いまだ日本で就職活動をしています。困った点は以下の通りです。①会社説明会やホームページなどにのせてある情報は信じられません。日本人ならではの「暗黙のルール」や「本音とたて前」などの文化を実感しました。②面接のときに、面接官にこまかいところをしつこく聞かれて、とても腹立ったこともありました。
- ・一緒に就活する人の少なさに困っていました。
- ・企業名にこだわらない方がよいと思います。
- ・言語、文化の障壁かな。
- ・今後、また機会がございましたら、ぜひ、日本で就職活動に挑戦させていただきます。
- ・私は日本において就活を行っていないので言いようがありません。4年間の時、どうもお世話になりました。ありがとうございました。
- ・私は日本に来たころに日本と母国といろいろな分野を比較し続けてきました。日本を好きになったと

思うけど、実際はそうではない。面接官に日本のことについて聞かれた時、長い間に日本にいてので、その日本のどこがいいかどんな点が悪いか、分からなくなる。また直に本音を話したほうがいいのかなどを非常に困りました。

- ・就職活動では、筆記試験が難しいから、学校から指導があればいいかもしれないと思います。
- ・就職活動はしていなかったのでちょっと分かりません。
- ・就職活動中会社説明会とかセミナーとかいろいろ活動があります。活動のスケジュールを制作して活動時間を守ることが困った点があります。
- ・情報はどこから入手できるのか。面接の場所を探すのが一番難しい。約束した時間がすぎても、まだみつけてなかったこともあります。
- ・特にありませんでした。自信を持って、しっかり自己分析や企業研究をしてのぞめば、大丈夫だと思います。
- ・日本での就職活動は卒業する手前からはじめたほうがきちんとできると思います。しかし、国によって就職活動が違うので、多くの留学生はそのちがいに気づいていません。早く留学生にそのポイントを知らせてほしいです。
- ・日本で就職活動をしてなかったです。
- ・日本の企業文化が分からないこと。
- ・面接の数が意外と多いことです。
- ・留学生向けの就活に関する説明会（特に3年編入生）があればと思います。

	度数	%		度数	%
回答	21	42.9	無回答	28	57.1
			Total	49	100.0

---

## Social Support and Autonomous Action on the Job Hunting of International Students

Masayo Fujimoto, Junko Urasaka, Tomohiko Moriyama and Nina Hakkarainen

---

Recently, many Japanese universities increasing international students according to the globalization policy by the government. But, there are not enough framework and information to their job hunting after finishing their study. To improve this situation and support to them, We, Doshisha University carried out a research about international students who will finish their under-graduate and graduate studies at March 2012.

We analyzed the result from three view points, which are the social support, various activity experiences and the detail of their job hunting, after divided into three groups regarding to their job hunting experiences and those results. We found a tendency that the student group who could decide their jobs, have various experiences such as variety of human relations, involvements to after school activities and local communities, and job hunting activities similar to how Japanese students do. At the same time, we clearly found the necessity of education and support program to improve their autonomous actions.

**Key words** : international student, job hunting, social support, autonomous action

